

要旨番号	開始	終了	氏名	所属機関	タイトル
開会の挨拶	10:00	— 10:05	青木輝夫	JCAR委員長	
長期構想について	10:05	— 10:10	山内恭長	長期構想WG代表	
座長			山口 一		
1	10:10	— 10:15	菊地 隆	海洋研究開発機構	Synoptic Arctic Survey & Repeat Hydrographic observation across the Arctic Ocean
2	10:15	— 10:20	渡邊英嗣	海洋研究開発機構	北極環境変動メカニズムの解明に向けた海水海洋結合モデリング
3	10:20	— 10:25	伊東素代	海洋研究開発機構	係留系を用いた海洋物理・化学・生物モニタリング観測
	10:25	— 10:30	(質疑応答)		
4	10:30	— 10:35	深町康	北海道大学	海水厚の係留観測
5	10:35	— 10:40	平譯 享	北海道大学	海水融解に伴う物理環境の変化が北極海の海洋生態系および物質循環に与える影響の評価
6	10:40	— 10:45	杉山 慎	北海道大学	グリーンランド北西部における氷河氷床・海洋・大気・生態・地形に関する総合的な研究
	10:45	— 10:50	(質疑応答)		
7	10:50	— 10:55	大西富士夫	北海道大学	Teleconnections/Telecouplings in the Arctic communities: intranational and international connections and impacts on rural people livelihood
8	10:55	— 11:00	金尾政紀	国立極地研究所	広帯域地震観測網によるグリーンランド氷床の気候変動に対する応答メカニズム解明
9	11:00	— 11:05	東 久美子	国立極地研究所	グリーンランド氷床の研究による地球の気候・環境・海水準変動の研究
	11:05	— 11:10	(質疑応答)		
10	11:10	— 11:15	野澤悟徳(発表: 小川)	名古屋大学	ライダーおよびレーダーによる北極域大気上下結合の研究
11	11:15	— 11:20	大山伸一郎	名古屋大学/オウル大学(フィンランド)	オーロラ高エネルギー粒子による大気微量成分への影響に関する研究
12	11:20	— 11:25	大山伸一郎	名古屋大学/オウル大学(フィンランド)	EISCAT_3Dと熱圏大気プロファイラを用いた極域磁気圏-電離圏-熱圏結合の研究
13	11:25	— 11:30	EISCAT_3D計画準備室/小川泰信	国立極地研究所	EISCAT_3Dレーダーを中心とした国内・国際共同研究の推進
	11:30	— 11:35	(質疑応答)		
14	11:35	— 11:40	金野祥久	工学院大学	海水相互作用の現象理解と再現技術の抜本的改善
15	11:40	— 11:45	中澤直樹	システム工学研究所株式会社	氷海域における流出油対策
16	11:45	— 11:50	大塚夏彦	北海道大学	北極航路の持続的利用と環境・社会インパクト
	11:50	— 11:55	(質疑応答)		
座長			田畑伸一郎		
17	11:55	— 12:00	柴田明穂/原田尚美	神戸大学/海洋研究開発機構	北極域における政策的に意義ある科学(Policy-Relevant-Science=PRS)研究
18	12:00	— 12:05	高橋美野梨	北海道大学	科学研究と国際政治: 基地を基点にして
19	12:05	— 12:10	大西富士夫	北海道大学	北極環境変化の国際関係への影響
	12:10	— 12:15	(質疑応答)		
			ランチタイム		
20	13:15	— 13:20	近藤祉秋	北海道大学	北極域の先住民漁撈・漁業: 気候変動とグローバル化への適応をめぐる学際的研究
21	13:20	— 13:25	高倉浩樹(発表無し)	東北大学	北極域エネルギー資源探掘をめぐる先住民社会と東アジアの動態
22	13:25	— 13:30	岸上伸啓	人間文化研究機構・国立民族学博物館	環北太平洋沿岸地域における環境変動と先住民社会の変化に関する比較研究
	13:30	— 13:35	(質疑応答)		
23	13:35	— 13:40	後藤正憲	北海道大学	シベリア地域における社会と環境のネットワーク
24	13:40	— 13:45	平譯 享	北海道大学	練習船おしよろ丸による北極海観測を活用した、諸課題に対応可能な次世代研究者の育成
25	13:45	— 13:50	内田雅己	国立極地研究所	環境変動下における北極生態系の生物多様性と物質循環研究
	13:50	— 13:55	(質疑応答)		
座長			兒玉裕二		
26	13:55	— 14:00	早坂洋史	北海道大学	気候変動に伴う北方林での大規模森林火災発生の気象現象の解明と気候変動の緩和
27	14:00	— 14:05	古屋正人	北海道大学	SARと現地観測による森林火災後の地盤変動と表層環境変化の検出
28	14:05	— 14:10	安成哲平	北海道大学	森林火災及びその大気汚染の高精度予測と火災の人間活動・生態系への影響および今後の適応策
	14:10	— 14:15	(質疑応答)		
29	14:15	— 14:20	小池 真(発表: 近藤)	東京大学	北極温暖化に関わる大気物質科学研究
30	14:20	— 14:25	柴田 隆	名古屋大学	ライダーを用いたエアロゾルと雲の連続観測
31	14:25	— 14:30	小林秀樹	海洋研究開発機構	温暖化がアラスカ北方林・ツンドラ植生の温室効果ガスや植生・土壌動態に与える影響の解明
	14:30	— 14:35	(質疑応答)		
32	14:35	— 14:40	的場澄人	北海道大学	海水から大気への粒子発生のメカニズムと大気化学環境への影響
33	14:40	— 14:45	末吉哲雄	国立極地研究所	永久凍土の融解とそれに伴う環境影響の把握
34	14:45	— 14:50	内田昌男(発表: 齊藤)	国立環境研究所	北極沿岸-陸棚斜面域における新たなメタンサイクル検出のための観測技術の開発とその環境影響予測
35	14:50	— 14:55	飯島慈裕	三重大学	北極低気圧・降水・水循環変動の長期変化とその実像の解明
	14:55	— 15:00	(質疑応答)		
			休憩		
座長			羽角博康		
36	15:20	— 15:25	杉本敦子	北海道大学	永久凍土上森林の持続的利用と新価値創出
37	15:25	— 15:30	岩花 剛(発表: 齊藤)	アラスカ大学	ポーカーフラットスーパーサイトを利用した不連続永久凍土帯の陸面過程研究
38	15:30	— 15:35	岩花 剛(発表: 齊藤)	アラスカ大学	サーモカルストによる北極陸域変化とその影響
	15:35	— 15:40	(質疑応答)		
39	15:40	— 15:45	榎山哲哉(発表: 飯島)	名古屋大学	東シベリア永久凍土生態系の脆弱性評価と凍土保全策の共創
40	15:45	— 15:50	永井 信	海洋研究開発機構	社会及び気候変動下における周北極域の生物季節と人々の生活の関わり
41	15:50	— 15:55	的場澄人	北海道大学	アイスコアを用いた過去200年間の沈着エアロゾルのデータヘース創成と変遷解明
	15:55	— 16:00	(質疑応答)		
42	16:00	— 16:05	齊藤和之	海洋研究開発機構	第四紀ペリンジアにおける地形-凍土-気候・生態システムと人類移動史
43	16:05	— 16:10	齊藤和之	海洋研究開発機構	北極域における地球システムモデル陸域過程の拡張と高度化(凍土-植生-湿地化, 大気⇄陸域⇄河川⇄海洋の物質循環)
44	16:10	— 16:15	青木輝夫	岡山大学	北極領域システムモデル構想
	16:15	— 16:20	(質疑応答)		
座長			青木輝夫		
45	16:20	— 16:25	山内 恭	国立極地研究所	わが国北極研究計画の歩みと今後の目指すべき方向性-GRENEおよびArCS計画策定を振り返って-
	16:25	— 16:30	中村卓司	国立極地研究所	大型研究マスタープラン
	16:30	— 16:35	山口 一	東京大学	新砕氷研究船プラン
	16:35	— 16:40	榎本浩之	国立極地研究所	今後の北極研究について
座長			青木輝夫		
	16:40	— 17:40	総合討論		
	17:40	— 17:45	閉会の言葉		

(発表なし)

46			町田敏暢	国立環境研究所	北極上空上部対流圏および下部成層圏における温室効果ガスの変動
47			山崎 剛	東北大学	シベリア域での陸面過程の将来変化
48			森本真司	東北大学	北極域における温室効果気体濃度・同位体比の長期変化
49			後藤大輔	国立極地研究所	ニーオルスンにおける大気中温室効果気体および関連成分の連続観測
50			田中雅人	北海道大学	北極域観光への影響と課題・対策
51			川合美千代	東京海洋大学	北極海と大気・陸の間の物質交換: その変化と行方
52			杉浦幸之助	富山大学大学院	メソスケール規模における積雪の動態把握